

安部公房 略年譜

― 演劇作品の上演を主とした略年譜

東京大学医学部在学中に小説で文壇にデビューしたが、昭和三十年からは劇作も手がけ、俳優座の千田是也と組んで、寓意と風刺のきいた特異な構造の作風を確立。のちに、自ら「安部公房スタジオ」を創設し、独自の手法による演劇実践に乗り出し、俳優の養成と演出も行った。三島由起夫と並び、第二次戦後派作家として、作品は海外でも高く評価され、三十カ国以上で翻訳出版されている。晩年はノーベル文学賞の候補と目された。(ここでは演劇上演を中心にまとめた)



十三 (一九二四)

三月七日、東京に生まれ、翌年父母とともに満州へ。奉天市に住む

十五 (一九四〇)

四年で中学校を卒業、成城高等学校理科乙類に入学。数学を得意としたが、文学書を耽読

十八 (一九四三)

成城高等学校を卒業し、東京帝国大学医学部に入學

二十 (一九四五)

自宅で開業医を営む父の手伝いなどをする。実存主義に関心を寄せる。冬に父死去

二十一 (一九四六)

暮れにやっと引揚げ船に乗船し、満州を離れる

二十二 (一九四七)

山田真知子と学生結婚(のちに「安部真知」として公房作品の装丁や舞台美術を手がける)。アヴァンギャルドの自覚を強め、勅使河原宏、瀬木慎一らと「世紀の会」を結成。夏にガリ版刷りの詩集『無名詩集』を自費出版

二十三 (一九四八)

花田清輝、岡本太郎、埴谷雄高らの「夜の会」に参加。東京大学を卒業。小説『終りし道の標べに』刊行

二十六 (一九五〇)

小説『壁―S・カルマ氏の犯罪』芥川賞受賞。小説『赤い繭』戦後文学賞受賞。小説『壁』刊行。小説『詩人の生涯』『空中楼閣』『闖入者』『水中都市』など発表。『闖入者』はのちの戯曲『友達』に発展

二十七 (一九五二)

記録文学への志向を強め、鳥尾敏雄らと「現在の会」結成。『少女と魚』発表(未上演)

二十九 (一九五四)

長編小説『飢餓同盟』刊行

三十 (一九五五)

『制服』(*3幕7景、倉橋健演出、青俳)／『どれい狩り』(*5幕18場、千田是也演出、俳優座)／『快速船』(倉橋健演出、青俳)上演。小説『棒』発表、のちの戯曲『棒になった男』に発展

三十一 (一九五六)

『永久運動』発表(未上演)。映画『壁あつき部屋』(小林正樹監督)上映

三十二 (一九五七)

ラジオドラマ『棒になった男』芸術祭奨励賞受賞

三十三 (一九五八)

『最後の武器』(*ヴァイゼンボルン作)ゲッチンゲン・カンタータ』に基づく改作、千田是也演出、新劇協議会有志)／『幽霊はここにいる』(千田是也演出、俳優座)上演し岸田演劇賞、テアトロ賞受賞。ラジオドラマ『こじきの歌』放送連盟賞受賞。『仮題・人間修行』執筆(未上演)。雑誌『群像』、「文学者とは」で三島由紀夫、大江健三郎と鼎談

三十四 (一九五九)

ミュージカル『可愛い女』(千田是也演出、大阪労音)上演。小説『第四間氷河』を刊行。NHK大阪で『日本の日蝕』放映、芸術祭奨励賞受賞

三十五 (一九六〇)

『巨人伝説』(千田是也演出、俳優座)／『制服』(*5景、倉橋健・塩田殖演出、青俳)再演(*清水邦夫「署名人」と同時上演)／『石の語る日』(千田是也演出)を訪中新劇団および俳優座(日本では関西新劇人の会が道井直次演出で初演)／『赤い繭』(塩瀬宏演出、草月アートセンター)上演。ミュージカル・コメディ『お化けの島』(長与孝子演出)をNHKテレビ・ラジオで同時中継放送。小説『チチンテラヤバナ』発表、のちに長編小説『砂の女』に発展

三十七 (一九六一)

『城塞』(千田是也演出、俳優座*東京労演委嘱)／ミュージカル・コメディ『お化けが街にやって来た』(安部公房・観世栄夫演出、大阪労音)／『人間そっくり』(岡田豊演出、人間座)／『乞食の歌』(観世栄夫演出、フェーゲラインコール演奏会)上演。映画『おとし穴』(勅使河原宏監督)上映、シナリオ作家協会賞受賞。ラジオドラマ『見える!』朝日放送放映、RKBで武満徹との合作『音の物体詩』『チャンピオン』放映、ともに芸術祭賞受賞

三十八 (一九六三)

小説『砂の女』読売文学賞受賞。『乞食の歌』(観世栄夫演出、同人会)再演。北海道放送テレビドラマ『虫は死ぬ』演出、芸術祭奨励賞受賞

三十九 (一九六四)

長編小説『他人の顔』『時の崖』発表。映画『砂の女』カナヌ国際映画祭審査員特別賞受賞、ブルーリボン作品賞など受賞
ニューヨークでドナルド・キーン氏と出会う。『人間そっくり』(老川比呂志演出、青俳)上演
作品集『水中市』刊行

四十 (一九六五)

『おまえにも罪がある』(千田是也演出、俳優座)上演。長編小説『榎本武揚』刊行

四十一 (一九六六)

桐朋学園短期大学芸術科に演劇コースが新設され、同教授に就任

四十二 (一九六七)

『友達』(成瀬昌彦演出、青年座)谷崎潤一郎賞受賞／『榎本武揚』(芥川比呂志演出、雲)／『どれい狩り(改訂版)』(＊7景、千田是也演出、俳優座)上演。映画『他人の顔』(勅使河原宏監督)公開。川端康成、石川淳、三島由紀夫との連名で中国文化大革命に対する抗議声明を発表

四十三 (一九六八)

小説『砂の女』がフランスで最優秀外国文学賞受賞。映画『燃えつきた地図』(勅使河原宏監督)上映。桐朋学園短期大学芸術科演劇コースで『詩人の生涯』を演出・指導

四十四 (一九六九)

『棒になった男』『三部作(靴)』を演出(紀伊國屋演劇プロデュース)、安部真知が第4回紀伊國屋演劇賞個人賞、井川比佐志が芸術祭大賞受賞

四十五 (一九七〇)

『幽霊はここにいる(改訂版)』(千田是也演出、俳優座)上演。大阪万博で映画『1日240時間』を勅使河原宏監督で上映。『安部公房 大江健三郎集』刊行

四十六 (一九七〇)

『未必の故意』(千田是也演出、俳優座)／『ガイドブック』演出(紀伊國屋演劇プロデュース)、芸術選奨文部大臣賞受賞。エッセイ集『内なる辺境』刊行

四十七 (一九七〇)

『幽霊はここにいる』(R・フォルクマー、和田豊演出)東独ドレスデン市のザクセン地方／『人命救助法』・『赤い繭』・『テンドロカカリヤ』(大橋也寸劇化)演出、人命救助法制作委員会)紀伊國屋ホールとホノルル市コマ劇場で上演

四十八 (一九七三)

演劇グループ「安部公房スタジオ」結成・主宰。井川比佐志、田中邦衛、仲代達矢、山口果林らが参加。『愛の眼鏡は色ガラス』演出(安部公房スタジオ旗揚げ、西武劇場オープニング記念公演)／ハロルド・ピンター作『ダム・ウェイター』(翻案)、『靴』『鰐魚』演出(安部公房スタジオ)。小説『箱男』刊行。ドナルド・キーン氏との共著『反劇的人間』を刊行

四十九 (一九七四)

『友達(改訂版)』演出(安部公房スタジオ)／『緑色のストッキング』演出(紀伊國屋演劇プロデュース、安部公房スタジオ)、『読売文学賞受賞。アニメーション映画『詩人の生涯』(川本喜三郎監督)上映

五十 (一九七五)

『ウェー(新どれい狩り)』『幽霊はここにいる(改訂版)』演出(安部公房スタジオ)。コロンビア大学名誉人文科学博士の称号を受け渡米、ドナルド・キーン氏と対談。『夢のスナップ・ショット』集『笑う月』刊行

五十一 (一九七六)

『案内人(Guide Book II)』演出(安部公房スタジオ)

新国立劇場での安部作品の上演

五十二 (一九七七)

『安部公房スタジオ・会員通信』創刊。『イメージの展覧会 音十映像十言葉十肉体』イメージの詩』『水中市(Guide Book III)』を演出・音楽(安部公房スタジオ)。長編小説『密会』刊行。アメリカ芸術科学アカデミー名誉会員に推される

『幽霊はここにいる』(1998年 演出：榎田美)

五十三 (一九七八)

アメリカ・ミルウォーキー市で『友達』上演。『人さらい(イメージの展覧会II)』『人命救助法』『S・カルマ氏の犯罪(Guidebook IV)』演出・音楽(安部公房スタジオ)。写真展『カメラによる創作ノート』開催

五十四 (一九七九)



演劇研究所『友達』(2010年 演出：栗山民也)

安部公房スタジオを率いて渡米、『仔象は死んだ(イメージの展覧会III)』演出・音楽
ニューヨークはじめアメリカ各地で上演、好評を博し、後に解散
創作『ユーブケッチャ』発表、のちに長編小説『方舟さくら丸』に発展
安部公房撮影写真付きインタビュー集『都市への回路』刊行

五十六 (一九八〇)

『友達』をルノーIIバロー劇団が上演、パリに行く

五十九 (一九八四)

『おまえにも罪がある(改訂版)』(千田是也演出、俳優座)上演
文壇で初めてワープロで執筆、『方舟さくら丸』を刊行

六十一 (一九八六)

簡易着脱式タイヤ・チェーン「チェンジ」を考案、国際発明家エキスポ⁸⁶で銀賞受賞



『城塞』(2017年 演出：上村聡史)

カセット・ブック『R62号の発明』を刊行。前立腺癌が発覚

六十四 (一九八九)

日本・スウェーデン合作映画『友達』(シエル・オーケ・アンディション監督)上映

二 (一九九〇)

CD『人魚』刊行

三 (一九九一)

『榎本武揚』(竹内統一郎演出、銀座セゾン劇場プロデュース)上演
長編小説『カンガルー・ノート』を刊行

四 (一九九二)

十二月二十五日深夜、執筆中に脳内出血による意識障害を起こし、病院に運ばれる

五 (一九九三)

小説『さまざまな父』発表。一時退院するも、一月二十二日午前七時一分死去。享年六十九。九月、真知夫人死去。死後ワープロのフロッピーディスクから執筆中の小説『飛ぶ男』、エッセイ『もぐら日記』が発見される



写真：谷古字正彦